

第3章

計量テキスト分析を利用した自由記述回答の整理と概観

1. 整理の目的

卒業生調査では、Q12「あなたが本学での学びから得た知識や技能などは、卒業後、どのような形で活かされていますか。あるいは、大学卒業後の経験から、本学で身につけておけばよかったと思う知識や技能などはありますか。すでにお答えいただいたこと以外で、思いあたることがあればご記入ください。」として、自由記述項目を設けている。本章では、この項目への回答から、本学での学びが卒業後にどのように活用されているか、あるいは卒業後5年が経過して大学時代を振り返った際にどんなことを身につけておけばよかったと感じているかを検討することを目的とする。

2. 整理の方法

整理にあたっては、「テキスト型データを統計的に分析するためのソフトウェア」である KH Coder を用いながら、コメント1つ1つについてソフトウェアと人間による確認を両方行うことで、網羅性を担保しつつ意味内容の確認まで行った。(昨年度の自由記述回答の整理と同様の方法で行った。詳細は章末「自由記述回答内容の整理手順」を参照)

3. 結果

3-1. コーディングの実施と結果

本年度実施分では、84件の自由記述回答が得られた。これらについて、網羅的に回答内容の分類を行うため、本年度の回答内容に即して対象となる単語を一部追加したコーディング・ルール(表1)を用いて、コーディングを実施した。

このコーディングの後、分析者による結果の確認を行った。確認の結果、コーディング・ルールにある単語は含まれていたが、内容がコードの定義の意味に添わないと判断した場合はコーディングを外し、反対に単語は含まれなくてもコードの定義に合致する内容であった場合はコーディングを割り振った。また、並行して、各コードについて、活用できている内容か、身につけておけばよかったとする内容か、その他の意見や提案であるかについて、分析者が判断を行った(表2)。

表1 コーディング・ルール

コード名	コードの定義	対象の単語
知識	専門、一般教養かを問わず、大学で得た知識に言及した内容	知識、教養、素養、専門、専攻、講義
理解・思考力	大学での活動中に学んだものごとの理解や整理、レポート等に表現することまでの能力に言及した内容	書き方、とらえ方、論理、思考、見方、方法
態度・姿勢	大学での活動中に学んだものごとに対する態度や姿勢、価値観に関することに言及した内容	柔軟性、価値観、積極性、心掛け、目標、姿勢、考え方
対人関係スキル	大学での活動中に学んだ他者とのコミュニケーションに関するスキルに言及した内容	コミュニケーション、関わり方、プレゼンテーション、プレゼン、発表、人前、協力、対人、協調
語学	言語に関わらず、大学で学んだ外国語に言及した内容	英語、フランス語、ドイツ語、語学、外国語、留学
IT・データサイエンス	PC関連、プログラミング、統計学などの情報処理に関するスキルに言及した内容	Word、Excel、プログラミング、HTML、情報処理、統計、IT、PC
資格	在学中に取得した資格に関することに言及した内容	資格、簿記、学芸員、教員
人間関係	大学で得た人間関係に関する内容	人間関係、交友、繋がり、つながり、友人、仲間
経験	特に知識やスキル、能力等に言及せず、大学での経験そのもののみ言及した内容を含む回答	経験
その他	(上記のコーディングにかからない内容について言及している場合、筆者がコーディングを行った)	-

表2 コーディングの最終結果

	知識	理解・思考力	態度・姿勢	対人関係スキル	語学	IT・データサイエンス	資格	人間関係	経験	その他
活用している	13	10	11	12	2	1	4	4	14	0
身につけておけばよかった	13	1	1	5	25	7	1	1	6	0
その他(意見・提案)	3	0	0	0	2	3	1	0	0	1
合計	29	11	12	17	29	11	6	5	20	1

3-2. 各コードと活用のされ方について

2. で述べたように、コーディングの後、そのコードの内容について、卒業後に活用されたか否かを個別に判断した。本節では各コード別に具体的にどのようなものが含まれているか、また活用のされ方についてみていく。

「知識」コード

「知識」コードは、学科専門分野や基礎教養等を問わず、在学中に学んだ知識について言及している 29 件（全体の 34.5%）の回答に割り振られた。

卒業後に活かされているとする回答（13 件、「知識」コードの 44.8%）のうち、直接的に活かされている具体例としては、まず以下のように授業で身につけた専門分野の知識や卒業論文のために調べた内容が、その後の生活や業務に活かされているという回答が見受けられた。

「塾で働いている為、子供の心理や人間の心理について学科で学習したことが活かされている。」(心理学科)

「進学先および就職先も理工学系の分野を選択したので、貴学で学んだ知識が直結する形で活かされている。」(物理学科)

また、知識が仕事上では直接活かされていないと、以下のように他者とコミュニケーションをとるときに教養として活かされているとする回答も見受けられた。このようなコメントは、卒業後の生活で活用している例とみなした。

「大学時代の専門分野は仕事に活かされることはありませんが、日常のちょっとしたニュースの理解や趣味の範囲では役立っています。」(日本語日本文学科)

これと同様に、自分の人生の豊かさにつながっているというコメントが見受けられ、このようなコメントも卒業後の生活に活かされている例とみなした。

「大学での学びは、直接仕事に役立つようなものでは無かったかもしれないけれど、私の人生を豊かにしてくれるとても楽しい時間でした。むしろ、仕事に直結する技能でない教養を学べることを、贅沢だと楽しんでいました。」(英語英米文化学科)

身につけておきたかった「知識」に関するコメントは、13 件（「知識」コードの 44.8%）で見受けられた。その内容は、仕事に関する知識や、専門的な知識の探究、幅広い分野の知識というように様々ではあるが、大学在学中に将来の社会人生活で役立つ知識を身につけられた可能性があったと感じていることがうかがえる。

「職種ごとに違う経験値がいきているように感じます。経理部時代は、運動部常任委員会での会計局経験が経理の考え方が活かされているが、会計の勉強をすれば、また違ったキャリアがあったかもしれません。営業の時は、マーケティングの授業の考え方の整理の仕方を学び、深く勉強すればよかったと感じました。」(経営学科)

「将来つきたい職業・それに必要な知識や技能をもっと学べばよかったと思う。」(経済学科)

「もっと専門的な知識を根拠よく探究してみたかった」(数学科)

「中高の教員をしているが、生徒が大学で学びたいと思っている分野の知識の不足を感じることもある。当時は自分なりに専門外の分野の授業を履修したつもりだったが、やはり偏りがあったと思う。より幅広い分野の基礎科目等を履修すればよかったと思うときがある。」(日本語日本文学科)

最後に、「知識」においてその他に分類したものとしては、以下のように、学んだ「知識」そのものは仕事に活かされていないことを述べているコメントであった。

「哲学科で学んだ知識に関しては、職業には活かされていませんが、最後の学生生活を学びたいことを自由楽しく学ぶ機会を得たことは、人生でよい経験だったと思います。」(哲学科)

「理解・思考力」コード

「理解・思考力」コードは、ものごとに対する理解の仕方や、捉え方、また論理的な思考力に関する内容に言及している 11 件 (全体の 13.1%) の回答に割り振られた。

卒業後に活かされていると判断された回答は 10 件 (「理解・思考力」コードの 90.9%) であった。これらの回答は、以下の具体例のように、学生時代の学習や研究を進めるうえで読解力や思考力が養われ、卒業後に活かされているという内容であった。

「デザインやプログラミング技術向上のために本や記事を読むことが非常に多いので (ほぼ毎日かもしれません)、大量の専門書や論文を読解するスキルや習慣を大学在学中に身に付けておいてよかったと思います。特に日文科は先行論文を読むことが非常に多かったので、そういった経験をしておいてよかったなと感じています。」(日本語日本文学科)

「研究を通して、物事をロジカルに考える力は活かされている。」(物理学科)

身につけておきたかった「理解・思考力」に関する回答は 1 件であり、卒業後の仕事にも応用の利く汎用的な能力として挙げられていた。

「大学は(建前の上では)学問の研究機関であり職業訓練の場ではないため、各職業における専門的な知識・技能はそもそも入社後に身に付けるのが普通であると考え、課題を見つける力や自己分析能力、課題解決力などの応用の利く汎用的な能力を身につけておきたかった。」(日本語日本文学科)

「態度・姿勢」コード

「態度・姿勢」コードは、ものごとに対する態度や姿勢、また、価値観に関することに言及している 12 件 (全体の 14.3%) の回答に割り振られた。

卒業後に活かされていると判断された回答は 11 件 (「態度・姿勢」コードの 91.7%) であった。これらの回答は、以下のように、学業や課外活動の中で計画的に目標を達成する姿勢が身についたり、大学で学んだことが仕事への関心に繋がったりしたという内容であった。

「計画的に物事を進めて目標を達成することは、履修カリキュラムを組む段階やゼミの発表準備、部活動などを通して身についたと思います。」(法学科)

「大学で学んだことが現在の仕事への関心に繋がったという意味で活かされています。」(心理学科)

身につけておきたかった「態度・姿勢」としては、1件であり、以下のように海外への興味が挙げられていた。

「海外への興味を身に付けておけばよかった」(物理学科)

「対人関係スキル」コード

「対人関係スキル」コードは、他者とのコミュニケーションに関するスキル等に言及している17件(全体の20.2%)の回答に割り振られた。このコミュニケーションには、発表やプレゼンテーションに関する内容も含まれる。

学んだ内容が卒業後に活かされていると判断されたのは12件(「対人関係スキル」コードの70.6%)であった。これらの回答は、以下のように学科における学習や、課外活動、就職活動を通じて、コミュニケーション力や他者からの適切な助言を得る力が身に付き、卒業後の仕事を進めるうえで役に立っているという内容であった。

「意見交換やプレゼンテーションが多い学科にいたので、人に何かを伝える前には確実に準備をして内容を自分の中で噛み砕いてから伝えること、誰かの意見を聞いたときに自分はどう思うのか考える力、など、身についたことは大きいと思います。」(ドイツ語圏文化学科)

「体育会自転車競技として、体力的な馬力や精神的な強さ、先方とのウケを考えるようなコミュニケーション力が非常にいきました。」(経営学科)

「『適切に有益な助言を仰ぐ力』だと感じています。就職活動をする中で私は、キャリアセンター職員やOBOG等、キーパーソンから助言を頂いてブラッシュアップし、完成度を高めていきました。業務においても、一人で長い時間抱えるのではなく、適切な助言を仰ぎながら、組織として最大のアウトプットを生み出せるように舵を取る力が重要だと痛感します。」(法学科)

身につけておきたかった「対人関係スキル」としては、5件(「対人関係スキル」コードの29.4%)であった。以下のように、自分の意見をまとめて発信することを不得意に感じていたり、仕事上のやりとりで誤解が発生した経験から、他者への確に伝える力や受け取る力を訓練しておくべきだったと後悔している様子が見られる。

「授業やゼミなどを基本的に受け身の姿勢で受講していることが多かったため、より積極的な態度で臨んでおくべきであったと後悔が残っている。特に、ゼミでは教授との距離も近いので、講義の中で疑問に思ったことを積極的に質問したり、仲間と意見を交わしたりしておけば、より自分の意見をまとめ、発信する力が身に付いていたと思っている。」(法学科)

「自分の話をしっかり相手に伝える能力は、もっとつけておくべきだと感じている。社会人になると、メールや報告など、短い文章・言葉で物事を伝える機会が多いが、相手が間違った理解をしたままコミュニケーションが終わってしまう、という場面に遭遇することが多い。相手に確認して、伝わっていないのであれば違うアプローチで伝える、また話を聞いた側もしっかり確認する、というのは当たり前ではあるが早くから訓練する必要があると思っています。」(経済学科)

「語学」コード

「語学」コードは、言語に関わらず大学で学ぶ外国語について言及している 29 件（全体の 34.5%）の回答に割り振られた。

学んだ内容が卒業後に活かされていると判断されたのは 2 件（「語学」コードの 6.9%）であった。ネイティブスピーカーの授業を受講したことが、現在の仕事に生きている様子がうかがえる。

「語学のスキルです。外国人講師による英語の授業は、非常に勉強になりました。グローバル企業に就職し、海外とやりとりすることも、上司や同僚が外国人であることも日常で発生しているので、大学で積み重ねた努力は生きています。」（法学科）

身につけておきたかった「語学」としては、25 件（「語学」コードの 86.2%）であり、以下のように、端的に現在必要性を感じていると述べるコメント、外国語の使用機会があることや外国語を修得しておけば卒業後にメリットがあることなど理由に言及するコメントが見受けられた。

「外国語をもっと学ぶべきだったと思う。」（心理学科）

「現在外国の方と接する機会があるため、外国語を身につけておけば良かったと思う。」（日本語日本文学科）

「<身につけておけばよかったこと>（中略）・英語読解力。デザイナーやエンジニアは海外に優秀な方が多くおり、そういった方々が記事や動画を配信しているので英語ができればかなり技術力 UP の近道になります。」（日本語日本文学科）

その他（2 件、「語学」コードの 6.9%）については、「外国語」「英語」との単語の記入のみであり、活用できているのか、身につけておきたかったのかが判別不能なため分類されたものである。どちらを意図したかは不明なものの、少なくとも語学に言及していることから、卒業後に必要性を感じたことはいくつかある。

「IT・データサイエンス」コード

「IT・データサイエンス」コードは、Word や Excel の使用方法や、プログラミング、統計学について言及している 11 件（全体の 13.1%）の回答に割り振られた。

卒業後に活かされているとするコメントは 1 件であり、以下のように、修士課程に進学した卒業生が、論文を執筆する上で在学中に身につけた統計の知識が役立ったというコメントであった。

「文章を読んで内容をまとめる力や統計についての知識は在学中にかなり身につけ、修論を書く上で役立つ部分があった。今後、もしまた研究する機会があれば活かされると思う。」（心理学科）

身につけておきたかった「IT・データサイエンス」の知識に関するコメントは 7 件（「IT・データサイエンス」コードの 63.6%）であった。基本的な PC スキルが実際に必要だったというコメントのほか、付加的にプログラミングスキルを修得しておけばよかったというコメントもみられた。

「Excelの知識やパソコンの技能を大学時代にしっかりと習得しておけば良かったと思う。」(経営学科)

「在学中、情報処理の講義はしっかりと取り組むべきだった。専攻の分野に関わらず、卒業後も必ず必要になるため、講義では仕事でもPCスキルを使うことを意識づけられるようなカリキュラムだと目的意識を持って取り組みやすくなるのではと思う。」(ドイツ語圏文化学科)

「<身につけておけばよかったこと>・プログラミングスキル。好きであれば卒業後に習得可能なのですが、大学中は時間があつたのでもっとやっておけばよかったなあとも思います。」(日本語日本文学科)

「IT・データサイエンス」コードで、その他に分類されたものは3件(「IT・データサイエンス」コードの27.3%)であった。大学での情報処理やプログラミングのスキルを学ぶ授業に関するコメントや、就職後はPCのスキルが役立つという実感に関するコメントがみられた。

「情報処理の授業は3・4年の必修にしても良かった。社会人になってすぐに使える知識なのに忘れてしまうのはもったいない。ただし、大学は学びの場なので就職に特化した授業をするのは良くないと思う。」(法学科)

「プログラミング等情報処理についてもっと身につける機会があれば良かったと思う」(政治学科)

「入社後、PCのスキルがあると仕事で役立つと感じております。」(物理学科)

「資格」コード

「資格」コードは、大学の課程内外を問わず、在学中に取得できる資格について言及している6件(全体の7.1%)の回答に割り振られた。

卒業後に活かされているとするコメントは4件(「資格」コードの66.7%)であり、以下のように在学中に取得した資格が卒業後の仕事で活用されているというものや、将来の可能性を広く考えられるようになったという内容であった。

「小売業なので、簿記の授業が役立った。」(経営学科)

「そもそも入学時点で国語科の教員を目指しており、教員免許が取得できる大学・学科を志望したため、専門学科知識はそのまま職務に活用されている。」(日本語日本文学科)

「国語科の教員になったので、教職課程や学科はもちろん、大学での学びはまるごと活かされています。」(日本語日本文学科)

「在学中に取得した資格のおかげで、自らの将来を幅広く考えられるようになりました。」(フランス語圏文化学科)

「資格」を取得していれば良かったというコメントは1件で、どのような資格かは不明であるが、卒業後に何らかの資格の必要性を感じたことがうかがえる。

「資格は必要だと思いました。」(フランス語圏文化学科)

「資格」コードでその他に分類されたものとして、以下のように資格取得を大学の卒業要件に入れることを提案するものがみられた。

「資格が全てではないが、社会に出てから役に立つ資格等を時間のある大学生時に取らせるような工夫を大学主体でした方が良いと思う。例えば、簿記、FP、宅建、〇〇士等の資格を最低2つ以上を取得することを卒業要件にする等。」(法学科)

「人間関係」コード

「人間関係」コードは、ゼミ、部活動、サークル活動などで培われた人間関係について言及している5件(全体の6.0%)の回答に割り振られた。

活用できているというコメントは4件(「人間関係」コードの80.0%)であり、卒業後も大学で得た人間関係が途切れておらず、友好的な関係が続いていることがうかがえるコメントであった。

「大らかな人柄の方が多かったので、卒業後も関係が途切れず、違う業種同士で情報交換をしています。」(日本語日本文学科)

「大学で得た人脈はとても有効に活用できています。」(経済学科)

「人間関係」コードで、得ておけばよかったというコメントは1件で、部活動でよい経験ができた一方、部活動に集中していたことで学生時代の人間関係に限られており、この点に後悔があることをうかがわせるものであった。

「部の活動をメインにしており、普通の大学生活では経験できないような特殊な環境でチームで1つの目標に向かって熱狂する体験ができたことがこれまでの人生にも活かされている。いっぽうで練習場がキャンパスから離れていた為、ゼミなどに所属してもっとキャンパスで友人と交流を深めれば、卒業後もより広い人間関係が生まれたのではないかと、思うことがある。」(法学科)

「経験」コード

「経験」コードは、具体的な知識、能力、スキル等に言及はないが、大学時代の経験そのものが卒業後に活用できているという20件のコメント(全体の23.8%)に割り振られた。

活用できているというコメントは14件(「経験」コードの70.0%)であり、以下のように学科での経験全体や課外活動について言及するものであった。

「現在製薬会社の研究員として働いていますが、その礎はこの大学で学んだことです。そういった意味では、ここでの学びが現在も大きく影響しています。」(化学科)

「運動部常任委員会のインセンティブなくとも人のために動く喜びや、楽しさなど他者にはない経験がいまいていると思います。」(経営学科)

「経験」を得ておけばよかったというコメントは5件(「経験」コードの25.0%)であり、内容としては、以下のように、他の知識や教養と並列してビジネス経験を挙げるコメントや、学生時代を漫然と過ごしてしまった後悔を述べるコメントなどが見受けられた。

「身に付けておくべきことは、やはり外国語の習得やボランティア活動への積極的な参加、他大との交流(他大学の授業への参加)、性教育や資産運用の勉強など幅広い教養の習得、インターンシッ

プや起業といったビジネス経験をしておくことは大切だったかなと思います。」(物理学科)

「大学で何も学ばず、経験せず、熱中することもなく、猛烈な反省と後悔の念に卒業後悩まされました。正直、母校には不満です。ネガティブな気持ちを前向きに捉えるため、今は大学職員として働いています。大学で何を学ぶのか、それを入学前の高校、入学後の大学、また両親からアドバイスされることなく、単位をとって卒業する、高校までのような短期記憶で試験を通過し、自らの頭で考えることをしなかった。」(政治学科)

「経験」に関してその他に分類されたのは1件で、以下のように現在の仕事には活きているものはない、という内容のコメントであった。

「大学での授業や教授陣には満足しており、不満はなかった。公務員になった際は業務内容にも生きていたと思うが、現在の仕事には活きているものはない。」(政治学科)

その他

その他のコメントとしては、以下のように、縦のつながりを得やすいことが本学の特長のひとつであり、その伸長のために現役学生と卒業生をつなぐ仕組み作りを提案するものがあった。

「新卒入社した日本 IBM での校友会設立、そして経営者校友会の設立準備で感じることは、縦のつながりが取りやすい貴重な校風であるということです。1.2年からの現役の学生の方が、もっと上の層にアプローチしやすくなる仕組みづくりも、重要だと思います。」(政治学科)

4.まとめ

以上、各コードについて具体的な回答内容を見ながら、本学での学びの成果がどのように活用されているかを見てきた。概要としては以下のように集約できるだろう。

- ・大学で学んだ知識が卒業後に活かされているかは、就いた職業によるところが大きいだが、教養として身についたものが顧客とのコミュニケーションに生きていたり、人生をより豊かにしてくれたと感じていたりしていた。学んでおけばよかったと感じる知識は仕事により様々だが、在学中に社会人生で役立つ知識を身につけられた可能性があると感じていることがうかがえる。
- ・理解・思考力では、大学時代に専門書を読んだり、研究を進めたりする中で身につけ、卒業後に活かされていると感じていた。
- ・態度・姿勢では、学業や課外活動の中で計画的に目標を達成する姿勢が身についたり、大学で学んだことが現在の仕事への関心に繋がったりしていた。
- ・対人関係のスキルでは、コミュニケーション力や他者から適切な助言を得る力が、学業、課外活動、就職活動を通じて身につけ、卒業後の仕事を進めるうえで活かされていた。自分の意見を発信する力を学生時代に訓練しておくべきだったというコメントも見受けられた。
- ・語学については、ネイティブスピーカーの授業を受けた経験が、現在の仕事で生きていていると感じていた。語学の必要性を感じているコメントは多く、実際に外国語を使用する機会があることや、外国語の修得は卒業後にメリットがあることなど、理由の記述も見受けられた。
- ・IT やデータサイエンスについては、卒業後に活かされていたのは、修士論文を執筆する上で統計の知識が役に立ったというコメントのみであった。逆に、身につけなかったスキル・もっと大学で学ぶ機会があるとよいスキルとして、PC スキルやプログラミングスキルを挙げているコメントが複数見受けられた。
- ・在学中に取得した資格が仕事で活用されていたり、資格を取得したことで将来の可能性が広がったことがうかがえた。大学時代に資格を取得しておくことについて、卒業後に必要性を感じたというコメントの他、資格取得を大学の卒業要件に加えることを提案するものもあった。
- ・人間関係では、大学で得た人間関係が途切れず、友好的な関係が続いているとするコメントがある一方、部活動に集中していたことで人間関係の広がりや足りなかつたと振り返るものもあった。
- ・大学時代の経験全般が活かされているというコメントがある一方、経験しておきたかつたものとしてビジネスに直結する経験を挙げるものや、積極的に経験をしようとしなかつた後悔を述べるものもあった。
- ・その他のコメントとして、現役学生と卒業生をつなぐ仕組みの重要性を述べるものがあった。

寄せられた回答からは、大学時代に取り組んだり経験したりした事柄は、現在の仕事に直接的に役立つか否かにかかわらず多くがポジティブに捉えられているものの、それと並行して、語学、IT やデータサイエンス、各種の資格などが社会人生で直接役立つスキルとして「身につけておけばよかった」と振り返られていることがわかる。もちろん大学は就職のための訓練を行う場ではないが、社会に出る直前のステップとなる大学時代に、その準備としての能力開発の必要と取り組むべき時間があっただろう。

今後に向けては、専門分野の学習と並行してこれらのスキルが身につけられる副プログラム・科目群な

どの開発や、専門分野を学習する中でスキルを向上させられる授業の工夫を検討することも、有意義であると考えられる。

■自由記述回答内容の整理手順

卒業生が回答したコメントの整理を行うにあたって、KH Coder (version:3.alpha.13L, 2018) の機能（形態素解析とコーディング機能）を用いた。KH Coder は「テキスト型（文章型）データを統計的に分析するためのフリーソフトウェア」であり、抽出する特定の語を設定できることや、回答の内容をコーディングする際に網羅できることと、フリーソフトウェアであり費用の面で有用であることを理由として利用した。しかし、KH Coder は文中に含まれる「語」についての解析ソフトウェアであるため、その語が肯定的あるいは否定的に用いられているかなどの意味は判別できない。このことから、KH Coder の機能を用いつつ、分析者による確認と再コーディング、意味の判別を行うことで、整理の目的を達成できるようにした。具体的な手順は以下の通りである。

【コーディングの手順】

- ① KH Coder を用いて、形態素解析を行い、単語を網羅的に抽出する。
- ② 単語と内容を検討しながらコーディング・ルールを検討する。
- ③ KH Coder によるコーディングを実施する。
- ④ KH Coder によるコーディングの結果を、分析者が確認し、必要な場合に再コーディングを行う。同時に、そのコードについて、活用できている・身につけておけばよかった・その他（〇〇を学べるようにしたほうがよいという大学への提案など）に意味の判別を行う。（最終コーディングの決定）
- ⑤ コーディングの差異を見ながら、コーディング・ルールを再検討する。
- ⑥ 再検討したコーディング・ルールでコーディングを実施する。
- ⑦ コーディング・ルールと最終的なコーディングの差異率の検討。

本年度は、昨年度に作成したコーディング・ルールをもとに②を行い、この際に「IT・データサイエンス」コードを追加した。

④において、KH Coder による網羅的なコーディング結果から、分析者による再コーディングを行ったのは、単語が含まれていても目的と合致しない使用の仕方である回答や、関連する単語を含まないがいずれかのコーディングと同様の内容に言及していると判断された回答があったためである。結果として、KH Coder によるコーディングから変更のなかったものの割合をコード採用率として計算したところ、全体の採用率は 89.0%であった（付録表 2）。再コーディングを行った後、その他を含むコードが何も振られなかった回答は 2 件であった。コードの種類別にコード採用率を見ると、最低が「知識」の 83.3%であり、最高は「IT・データサイエンス」の 96.4%であった。

また、この再コーディングと同時に、活用できているという内容、身につけておけばよかったという内容、あるいはその他の内容、のいずれに該当するか、分析者の判断により分類を行った。これは、質問項目は「どのような形で活かされていますか」であるが、実際の回答には、「〇〇はあまり活かされていない」といったものや、「〇〇を学べるカリキュラムにしてほしい」といったものなどが含まれており、これらの判別が必要であったためである。

また、このコーディングでは、一つの回答に複数のコードが振られる（一つの回答が複数のコードに該当する単語を同時に含む）場合が多数存在するが、その意味の判断はコードごとに行った。

なお、⑤～⑦は、次年度以降の自由記述回答の整理に用いることを意図して、コーディング・ルールの妥当性を高めることを目的とした振り返りの作業である。

今回、KH Coder による解析やコーディング後の意味内容の判断は 1 名の分析者によって行った。本報告書に含まれる回答内容とコーディングや意味については、複数の人間による確認と合意を経ているが、すべての回答やコーディングについて複数人の確認を行うことには使用できるリソースの関係上限界がある。したがって、本報告の結果の信頼性や妥当性についても限界があるが、次年度以降も課題として、整理の方法の検討を進めていく予定である。

付録表1 頻出単語上位 150 語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
思う	59	職業	6	意味	3
大学	48	得る	6	運動部	3
学ぶ	31	能力	6	営業	3
身	28	話	6	科目	3
役に立つ	24	海外	5	会社	3
授業	23	学習	5	学び	3
付ける	23	学生	5	学校	3
仕事	22	教員	5	学問	3
知識	22	研究	5	楽しい	3
社会	21	使う	5	活動	3
感じる	19	就職	5	活用	3
多い	19	出る	5	関係	3
英語	17	場面	5	企業	3
経験	16	心理	5	技術	3
自分	15	付く	5	教授	3
力	14	幅広い	5	教養	3
考える	13	聞く	5	言う	3
時代	13	IT	4	言葉	3
卒業	13	外国	4	交流	3
分野	13	環境	4	向かう	3
勉強	13	業務	4	向上	3
活かす	12	経済	4	講義	3
現在	12	顧客	4	参加	3
外国語	11	考え方	4	持つ	3
学科	11	取り組む	4	自由	3
生きる	10	取る	4	実践	3
機会	10	受講	4	取得	3
人	10	重要	4	就職活動	3
専門	10	情報処理	4	習慣	3
部活動	9	人生	4	準備	3
ゼミ	8	生活	4	助言	3
意見	8	積極	4	将来	3
語学	8	相手	4	場	3
資格	8	知る	4	情報	3
時間	8	直接	4	職員	3
特に	8	読む	4	職種	3
コミュニケーション	7	発表	4	進学	3
スキル	7	文学部	4	人間関係	3
技能	7	文章	4	政治学科	3
今	7	目標	4	先生	3
習得	7	友人	4	前	3
伝える	7	理解	4	他	3
働く	7	良い	4	大きい	3
必要	7	PC	3	大変	3
物事	7	もう少し	3	仲間	3
違う	6	イメージ	3	内容	3
学べる	6	カリキュラム	3	日常	3
学習院	6	サークル	3	日本語	3
後悔	6	プログラミング	3	日本語日本文学科	3
在学	6	意識	3	入る	3

付録表2 KH Coder によるコード採用率

コード名	知識	理解・ 思考力	態度・ 姿勢	対人関係 スキル	語学	IT・データ サイエンス	資格	人間関係	経験	全体
変更のなかった回答	70	75	75	71	73	81	80	77	71	673
全体の回答数	84									756(※)
コード採用率	83.3%	89.3%	89.3%	84.5%	86.9%	96.4%	95.2%	91.7%	84.5%	89.0%